

課題研究・自然科学部の研究成果を学会で発表！！

「地球惑星科学連合 2014 大会」

本年 4 月 28 日（月）～5 月 2 日にかけて、日本地球惑星科学連合大会 2014 が横浜のパシフィコ横浜で開かれ、パブリックセッションの 1 つとして、「高校生によるポスター発表」が催された。発表件数は 42 校 68 件である。

本校からは、課題研究と地学部の成果 4 本をエントリーした。発表順に①「都市中心部における AED の空間配置」、②「本校体育館下のボーリングコアから推定する旧加古川流域の凝灰岩の分布」、③「オーストラリア NSW 州南東部と西南日本内帯の深成岩類のマグマ分化過程～サブソリダス過程～一角閃石に注目して一」、④「地元加古川市－高砂市に広く分布する高級石材凝灰岩『竜山石』の廃棄粉末を利用した陶器の色相」、である（大会参加者 9 名：石田祐樹・磯川橘花・大坪榛名・川勝太郎・北野彩華・長谷川真緒・長谷川萌慧・藤原奨・若園怜子）。

プレゼンテーションでは、実物展示などにも工夫を凝らし、丁寧な説明をおこなっていた。専門家からの指摘として、具体的な事実関係や分析方法についての質疑があり、より精緻化をはかる必要性を感じた。また研究の方向性について示唆を得たチームもあった。

高校生の発表を通して感じた点は、①従来の研究枠組みにとらわれない柔軟な発想のテーマが多く、一般の研究者の刺激にもなっていること、②研究のレベルを上げるためには、1 つのテーマを継続的に積み重ねていく必要があること、である。こうした点を踏まえ、今後の本校 SSH に活かしていきたい。（担当：小橋）



「CAADRIA2014 国際会議」

5 月 14 日（水）～16 日（金）にかけて CAADRIA 2014（建築関係の国際会議）が開催され、世界 27 カ国・約 200 名の専門研究者・大学院生が、日本（会場：京都工芸繊維大学）に集まった。発表は、セッション 88 件、ポスターセッション 34 件である。運よく今回は日本開催ということもあり、本校の課題研究班 4 人が参加し、「RELOCATION DESIGN OF POWER LINE AND UTILITY POLE FOR LANDSCAPE IMPROVEMENT（景観向上に向けた電柱・電線の再配置設計に関する研究）」の成果についてポスターセッションの部で発表した。19 回目を迎えたこの学会で高校生が参加するのは初めてのことである。学会はすべて英語で進行されるため、今年 1 月から発表内容・ポスター等、本校英語教師にもお世話になりながら少しずつ発表準備を進めてきた。生徒たちは開会からの英語の波に押しつぶされそうになったが、徐々に耳も慣れていき、ポスター発表では堂々と発表することができた。数あるブースの中で最も聴衆を集め、質疑応答もうまく対応していた。傍で京都大学の学生達が「高校生なのにすごいな」と話しているのを耳にした。また、学会の補助係として、京都工芸繊維大学学生スタッフに混じって、主にタイムキーパーとして活動し、司会者や発表者との何気ない英語のやり取りもできるようになっていった。彼らが高校生だということを後で知った人もおられたが、国内外の研究者に称賛のお言葉をいただいた。SSH の課題でもあるグローバル人材育成の視点から見て、参加した 4 人の生徒がこの国際会議に参加・経験して得たものは大きい（特に英語の重要性）。

このような大きな大会で発表できるようになるための環境が、本校にはある。望めば整えてくれる。このたびは大阪大学福田知弘准教授には専門に関する多大なるアドバイスを、本校英語教師には発表のためのご指導を、さらに、本校教師・生徒の皆様には研究に関わる実験の被験者としてご協力をいただいた。ここに謝意を記す。（担当：福本）

